

居宅参加 52 事業所 61 人

訪看参加 18 事業所 22 人 回収率 69.9%

集計結果

1 本日の居宅介護支援部会で取り上げた内容は参考になりましたか？

① 大変参考になった	47	81.0%
② 少し参考になった	10	17.2%
③ あまり参考にならなかつ	0	0.0%
④ 参考にならなかった	0	0.0%
⑤ 未記入	1	1.7%
	58	

2 参考になった点

- ・がん末期でも本人や家族が訪問看護の必要性を感じていないと、なかなか導入に踏み切れない時があるが、生活の全体像を見たり家族の相談にのったりするために早めに訪問看護に相談してもらえると良いことを聞いて、導入のタイミングを早めても良いと思った。費用面の相談もっていただけるとのことので安心した。
- ・色々な事例が聞けた。
- ・事例を通してCMの関わり方をわかり易く説明していただき、参考になった。
- ・関連ツールの情報交換。ターミナルに近づく程、密な連絡が必要になる。電話、FAX以外の方法の検討の必要性、重要性を痛感した。訪問診療、訪問看護の導入のタイミング。
- ・ターミナルの利用者に対して訪問看護の導入の必要性をステージに沿って力説していたこと。また、ケアマネさんが思っている不安や疑問に対して解決する場になったこと。
- ・訪問看護について具体的な内容が理解できて良かった。顔の見える関係が創れた。それぞれの立場を理解することが出来た。
- ・CM、訪看、お互いに連携が必要と思っていることがわかって良かった。もっと情報交換を気軽に迅速にしていけることが大切。
- ・どうしてもターミナルになるとケアマネは蚊帳の外になってしまうと共感があり安心した。
- ・訪問看護とケアマネのグループワークはなかなか無い機会でもとも有意義だった。在宅での看取りは連携が大切とわかっていても言葉通りにいかないことが多い。リラックスした雰囲気の中でケースについて話し合えると今後の関係もつくりやすくなる。
- ・講義で、それぞれの経過においてケアマネの役割を確認することが出来た。
- ・日頃話が出来ない看護の方と話が出来た。
- ・事例を説明しながら、どのような連携をしていたのか、何を各専門職は行っていたのか、とてもわかり易かった。
- ・看取りの連携は医師への関わりは看護師になるだろう。本人、家族と共に穏やかな最期を迎えられるよう積極的に医療職に情報意向を伝えられるようにしていく。常の顔が見える関係を築いていく必要がある。
- ・訪問看護の方との意見交換で、医療連携の大切さとコミュニケーションの大切さを学びました。
- ・ターミナル期について分かりやすく、ポイントがとても分かりやすかった。
- ・ターミナルの具体的な流れをわかりやすく学ぶことが出来た。
- ・率直な意見や考えを話し合えた。
- ・NSの声が聞けたこと。
- ・ターミナル各時期のケアマネ、訪看の役割について。ターミナルが怖くなくなりました。
- ・ケアマネさんが普段困っていることが聞けてよかった。
- ・グループワークでいろいろな意見が聞けて参考になりました。
- ・事例が具体的に経過の中で状態に合わせて、それぞれの立場でのケアや役割が書かれており、自分はどうだったかな？、ああこういうケアが必要だったんだと振り返りが出来ました。今後に役立てたいと思いました。
- ・家族、本人、事業所との連携を密にし、変化に敏速に対応することの大切さを感じた。（プランの変更）
- ・賃貸物件で大家さんが看取りに協力してもらえなかった事があり、ターミナル期にある人が賃貸物件で生活している場合。
- ・看取りのステージの整理になった。ケアマネの役割の学びになった。
- ・いろいろな事例が聞けて良かった。
- ・他のケアマネや訪問看護と悩みが共有できた。
- ・事例を通してそれぞれの立場がどのような経過があり対応したのか良くわかった。

2 ⇒続き

参考になった点

- ・ケアマネ目線での事例を聞いたこと（訪問看護）
- ・ターミナル期で医療職がケアマネをどんな風に見ているか気になっていたが、サービス調整の中心と捉えてくれていて嬉しかった。
- ・密な連携と伝え方について。
- ・賃貸アパートで看取りを断られることがあるのは疑問である。ただそのようなところもあるということを知った。
- ・訪問看護からの意見が聞いたこと。
- ・あらためてケアマネの役割を確認できた。
- ・ターミナルには段階があり、そのステージで何をすべきかとも参考になった。
- ・ケアマネさんの苦労や頑張りなど声が聞いたこと。在宅ターミナルの講義がとてもわかりやすかった。
- ・ターミナル期の主治医・大学病院から地域の訪問診療へのスイッチを本人家族に伺い、併行しながら関わるという視点。
- ・看取りが上手くいったケースの内容を聞いて参考になった。他の居宅のケアマネも同じような思いをしていることがわかった。
- ・ターミナルの方への準備・予測を伝える事（対応）を教わった。
- ・ターミナルにおける訪問看護との連携方法について。
- ・家主や区によって違いがあることが確認できて参考になった。
- ・家族の心が揺らいだり・・・情報共有の大切さが理解できた。

3 参考にならなかった点(理由)

- ・訪問看護を利用するときに、介護保険と医療保険の有効な使い方を知りたかった。金額面を特に知りたかったです。
- ・どうしたらNSと仲良くなれるのか知りたい。
- ・まわりが近すぎて、声が聞き取りずらかった。発表時間が短かった。
- ・GWの目的（目標）がはっきりしていないので。

4 その他(意見感想など)

- ・これからもたくさんの方の関わりの中で、訪問看護の医療関係者と情報交換できるようにしていきたい。
- ・グループワーク開始時は場違いな所に来てしまったと参加したことを後悔しましたが、訪問看護から見たケアマネの役割を伺うことができ、学びになりました。研修を受けながら、現在担当している方々の顔が浮かんできました。後悔しないように頑張りたいです。
- ・出来るだけ出席したいと思います。
- ・ワンパターンの往診、訪問看護しか使っていないので、いろいろ知っていききたい。
- ・地域がまったく違うグループでの討論は萎縮してしまいます。
- ・ターミナルに限らず、ウェブ等の活用での情報共有のシステムを標準化してほしい。
- ・ターミナルの方に関わる際に、ご本人、ご家族の気持ちは移り行くものである。
- ・それぞれが体験したターミナルケース症例が聞いて参考になった。合同部会が始めてだったが、顔の見える関係を持つことの大切さを感じた。
- ・エリア訳してグループワークできたのが良かった。近くその他職種を知る機会になった。
- ・今後も合同で勉強会等できると良いと思います。
- ・高江洲先生の語り口調がとても優しく患者さんもとても安心されるだろうなと感じました。

5 今後、部会で取り上げて欲しい内容

- ・今日のようなグループワークいいと思います。
- ・合同部会で情報交換したいです。
- ・洪水、震災時の訪問看護対応。
- ・老々介護で認知症が重く、徘徊で警察に保護されること多く、糖尿病の服薬管理が出来ず、インスリンもしっかり打てない事例。
- ・私達の考える地域包括ケアシステム
- ・実地調査対策（ケアマネジメントの基本・アセスメント書式や記入について）
- ・災害時の対応（ケアマネとしてどこまで何をするのか・何を準備しておけばよいのか）
- ・精神疾患のある家族に対するケアや対応方法
- ・本日のような会を再度取り上げて欲しい